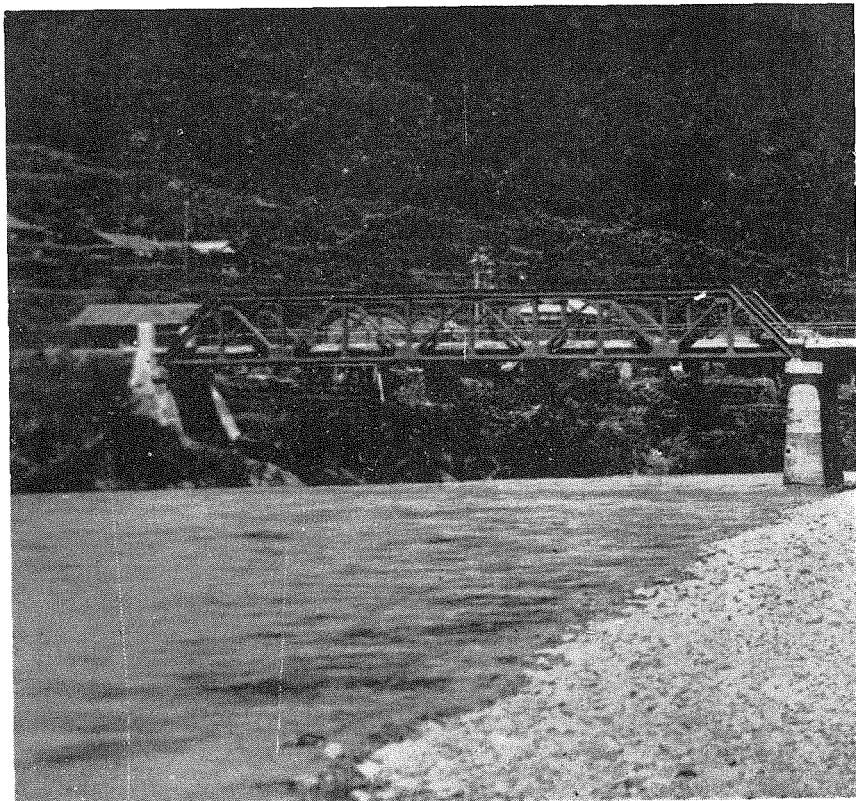


# 福井橋

## 工事概要

和歌山縣土木課



本縣の西海岸に沿ふて走る重要幹線道路、及び鐵道紀勢西線の中樞地である南部町と山間の仙境地として知られてる龍神温泉とを結ぶ府縣道で其の中間で日高川を横斷してゐる。其處に架せられたのが福井橋である。

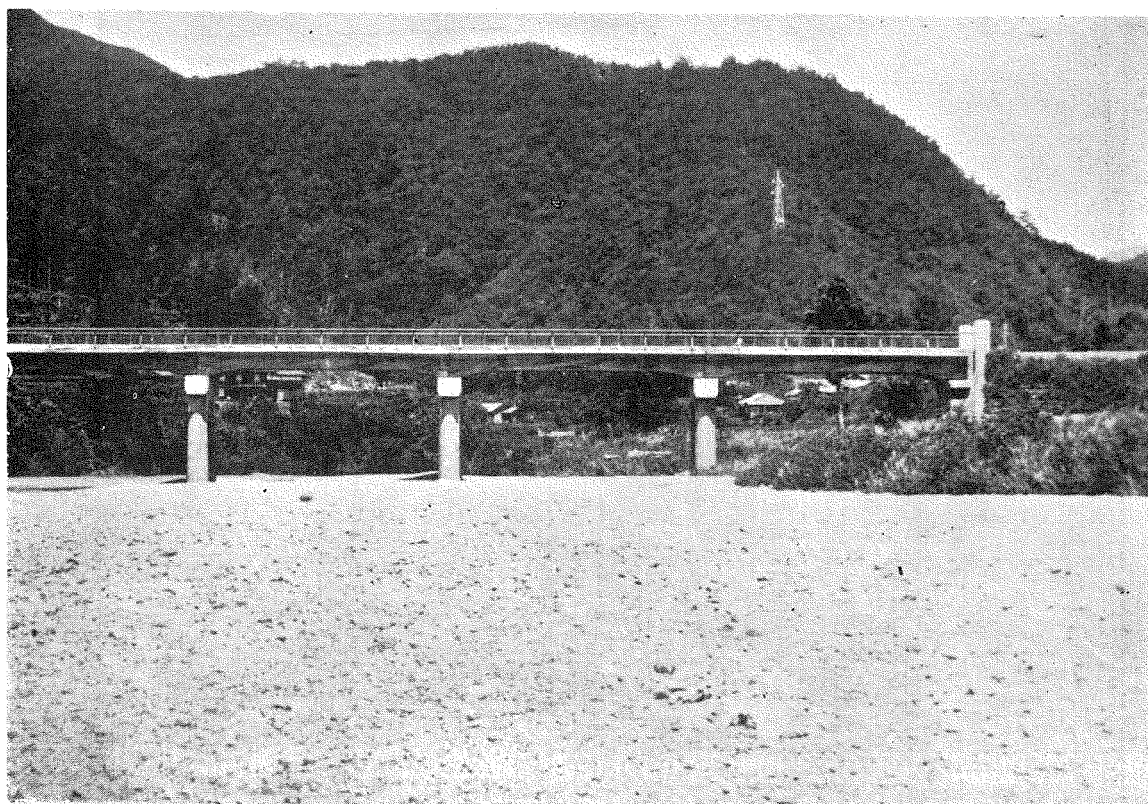
日高川と云へば安珍清姫道成寺の傳説で有名な川であるが、本橋は清姫が屍體となつて渡河した河口附近から遙かに80軒程も上流である。此の川は本縣としては最長流路約130軒を有する川であり、本縣の最高峰である護摩壇標高約1,400米附近の山嶽地を水源としてゐる。河口附近以外は其の流域に殆んど平野と云ふものを持たず、山間を甚だしく蛇行して居り、然もかなりの急流である。

従つて洪水量も相當大きいし、又古來木ノ國(紀之國)として知られたるに木材の流下搬出が非常に多いので、架橋の計畫設計にか

りの苦心を要した。本路線が相當交通量も多いし、本縣としての重要道路の一つでもありながら、今日迄長らく假橋の儘で放置せられたと云ふには、他にも種々原因もあるが、以上のやうに簡単に架橋出来なかつたが爲めである。今假りに昭和八年度に於ける本橋の交通量を當時の調査表から拾つて見れば一日歩行者162人、自轉車47臺、牛馬車2臺、自動車1臺位に過ぎないが、昨今は此れの數倍に達してゐる。

それは此の地方の交通路開發による産業振興による所もあるが、高野山から護摩壇を経て龍神温泉に至る所謂ハイキングコースの宣傳と、龍神温泉の幽邃地で美人になる湯として次第に高名になつたが爲め等で、茲一兩年の遊覽客の激増は實に驚くべきものである。

扱て本橋の計畫に當つては先づ、洪水と流



木關係を考慮して、低水敷部分の左岸寄りに徑間30米の低構鋼橋を置くことにし、高水敷に當る部分には鐵筋混凝土T型桁橋四連を配することにした。地盤は大體に於て砂利層であるが、構橋部の橋臺と橋脚の二基の基礎を岩盤に喰ひ込ませ得たので安全強固になつた。昭和九年八月中旬に工事着手したのであるが間もなく例の關西附近の大風水害に遭遇し、下部工事に支障は來すし、鐵材は暴騰するし、請負人もかなり苦しめられたが、縣も亦相當惱まされた。然し其の割合には順調に進捗して工事期間9ヶ月、今年六月始めに見事に竣成した。そして本縣としては稀に見る實に盛大な竣功祝典が舉行されたのである。その祝典に列したる者の誰しもが、如何に本橋が待望久しきものであり、架設の如何に遅そかりしかを、今更らながら痛感したの

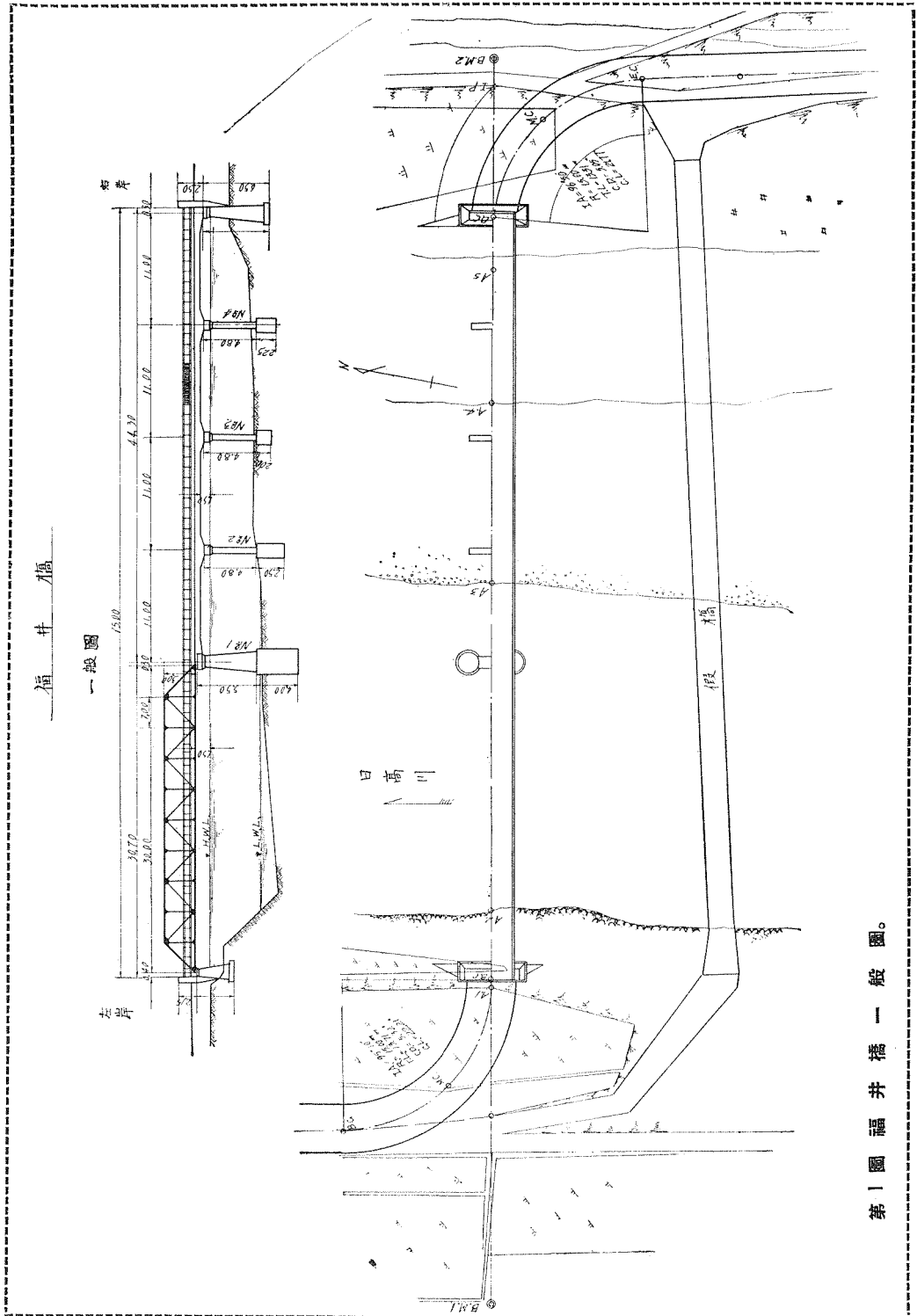
であつた。

## 設 計 大 要

橋梁所在地名 和歌山縣日高郡下山路村  
 架橋道路名 府縣道龍神南部線  
 橋種型式 ワーレン型低構鋼橋及鐵筋混凝土T型桁橋  
 全橋長 75.00米  
 有効幅員 4.0米  
 連 數 構橋1連 T桁橋4連  
 一徑間長 構橋30.0米 T桁橋11.0米  
 構鋼橋鋼材噸數 32.13噸  
 同 坪當り噸數 0.27噸  
 T桁橋混凝土量 93.23立方米  
 同 鐵筋噸數 12.44噸  
 橋臺型式材料 一字型重力式玉石混凝土  
 橋脚型式材料 基礎井筒(構橋部ハ鐵筋混

福井橋

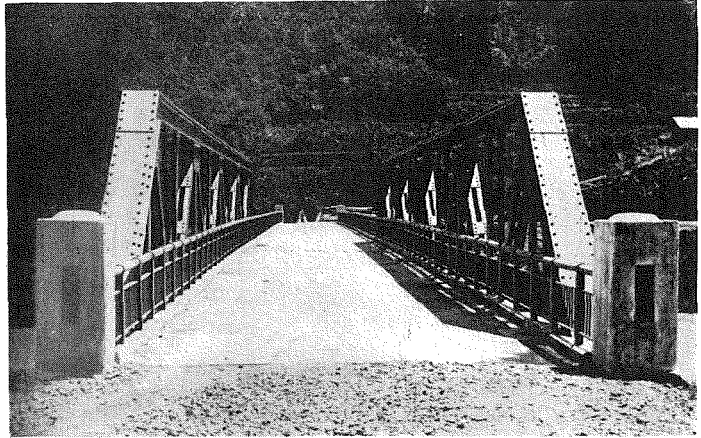
一般圖



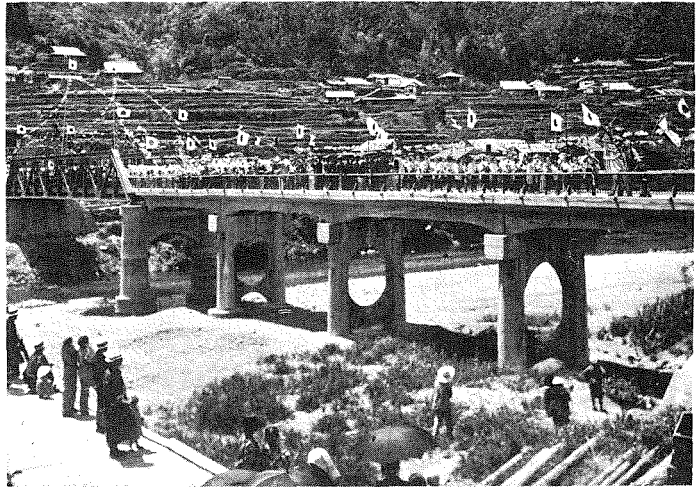
第一圖 福井橋一般圖。



寫眞2・福井橋の正面、左岸より



寫眞3・福井橋開通式當日の盛況。



凝土、T桁部は鋼鉄飯)上に鉄筋凝  
 土圓柱形樁體二本建とす  
 橋面構造 凝土厚4呎  
 欄干材料 瓦斯管及型鋼  
 橋梁總工費 20,771圓  
 上部工費 13,369〃  
 橋體費 構鋼部 7,629圓  
 T桁部 4,711〃  
 橋面費 262圓  
 欄干費 1,367〃  
 下部工費 1,488〃  
 左岸橋臺 502〃

右岸橋臺 986圓  
 橋脚費 構鋼部 1,601圓  
 T桁部 2,000圓(三基)  
 取付道路 2,313圓  
 材料單價  
 鋼材仕式迄一切應當リ 198圓  
 鐵筋應當リ 150〃  
 凝土(配合1:2:4) 16.27  
 同 (配合1:3:6) 11.90  
 (以上)